

統合新領域学府ユーザー感性学専攻修士学位論文又は
特定の課題についての研究の成果に係る審査基準

(審査体制)

学位論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、学位論文等という）に係る審査は、主査1名、副査1名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文等の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて適切かつ明確に示されており、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、先行研究の十分な調査に基づく、研究テーマの位置づけがなされているか。また論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために、理論、実験、実践、フィールド調査、資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や応用的な価値を有しているか。高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文等の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文等としての体裁は整っているか。文献や図表は出典が明示され、正しく引用されているか。

6. 研究能力

学位申請者は、学際性・統合性に基づく幅広い視野と専門的知識を有しているか。また研究成果を論理的に説明できるか。

(評価基準)

上記1～6の評価項目すべてについて、修士学位論文又は特定の課題についての研究の成果として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府ユーザー感性学専攻博士学位論文審査基準

(審査請求条件)

学位論文に関連する内容の査読付き論文（掲載決定を含む）が一篇以上あり、指導教授が学位論文として水準に達していると認めたもの

(審査体制)

学位論文の審査は、主査1名及び副査2名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、それらの精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

(評価基準)

上記1～5の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府ユーザー感性スタディーズ専攻修士学位論文又は
特定の課題についての研究の成果に係る審査基準

(審査体制)

学位論文又は特定の課題についての研究の成果（以下、学位論文等という）に係る審査は、主査1名、副査1名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文等の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて適切かつ明確に示されており、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、先行研究の十分な調査に基づく、研究テーマの位置づけがなされているか。また論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために、理論、実験、実践、フィールド調査、資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や応用的な価値を有しているか。高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文等の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文等としての体裁は整っているか。文献や図表は出典が明示され、正しく引用されているか。

6. 研究能力

学位申請者は、学際性・統合性に基づく幅広い視野と専門的知識を有しているか。また研究成果を論理的に説明できるか。

(評価基準)

上記1～6の評価項目すべてについて、修士学位論文又は特定の課題についての研究の成果として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府ユーザー感性スタディーズ専攻博士学位論文審査基準

(審査請求条件)

学位論文に関連する内容の査読付き論文（掲載決定を含む）が一篇以上あり、指導教授が学位論文として水準に達していると認めたもの

(審査体制)

学位論文の審査は、主査1名及び副査2名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、それらの精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

(評価基準)

上記1～5の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻修士学位論文審査基準

(審査請求条件)

指導教員が学位論文として水準に達していると認めたもの

(審査体制)

学位論文の審査は、主査1名、副査1名以上、及び主査・副査以外の当該学生が所属する専攻内の各専門分野（先端材料科学分野，ダイナミクス分野，情報制御学分野，人間科学分野，社会科学分野）の専任教員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献が適切に提示され、精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

(評価基準)

上記1～5の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府オートモーティブサイエンス専攻博士学位論文審査基準

(審査請求条件)

学位論文に関連する内容の査読付き論文が学術論文誌に発表があり（掲載決定を含む）、指導教授が学位論文として水準に達していると認めたもの

(審査体制)

学位論文の審査は、主査1名及び副査2名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、それらの精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

(評価基準)

上記1～5の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻修士学位論文審査基準

(審査体制)

学位論文審査は、主査1名、副査2名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、当該主題に関わる先行研究の十分な調査が行われ、精確な読解、適切な評価が行われているか。また論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために、理論、実験、実証、シミュレーション、フィールド調査、試作・試行、資料収集などの研究方法が適切か。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性、有用性等を持った学術的貢献、社会的貢献となっているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献や図表は出典が明示され、正しく引用されているか。

6. 学位論文提出までのプロセス

着手発表、中間発表、口頭試問等、学位論文提出に必要な所定の発表等を終えているか。

(評価基準)

上記1～6の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻博士学位論文審査基準

(審査条件)

原則として、以下の要件のうち、いずれかを満たし、指導教員が博士学位論文として水準に達したと認める場合、審査を開始することができる。

- ・ 学位論文に関連するテーマについて、主要な貢献を行ったと認められる査読付き学術雑誌、査読付き国際会議、査読付き国内会議の論文が合計3篇以上あり、そのうち、査読付き学術雑誌の論文が1篇以上あること。
- ・ 学位論文に関連するテーマについて、査読付き学術雑誌の論文2篇以上があること（この2篇は単著であること）。

(審査体制)

学位論文審査は、論文調査委員である主査1名と副査2名以上の審査委員の合議で行う。

(評価項目)

1. 研究主題（テーマ）の意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて適切かつ明確に示されており、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

2. 先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、それらの精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

3. 研究方法の妥当性

研究主題探求のために、理論、実験、シミュレーション、フィールド調査、資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

4. 論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や応用的な価値を有しているか。

5. 論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献や図表は出典が明示され、正しく引用されているか。

6. 研究能力

学位申請者は、情報提供者と利用者双方の立場に立ち得る幅広い視野と専門的知識、新たな問題をみつけだす研究能力を備えているか。また研究成果を論理的に説明できる文章力があるか。国際的な発信力は十分か。

(評価基準)

上記1～6の評価項目すべてについて、学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。